

広報アノ口

平成28年3月1日
第96号
栗山町開拓記念館

栗山町の史跡

歴史の証しを巡る その二

(21) 開拓記念樹林(クリ・オウトウ)

旧森農場事務所跡

明治四十(一九〇七)年頃、農場開設時に七重勤業試験場より苗木を取り寄せ植付したもの。

(22) 緑丘小学校閉校記念碑

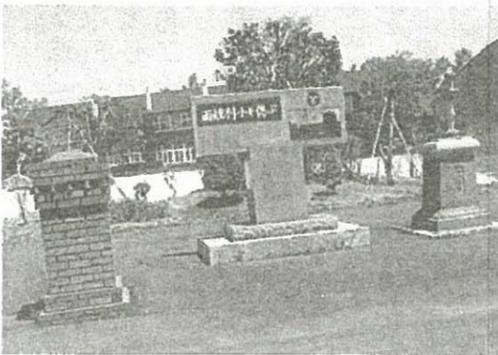
緑丘

昭和二(一九二七)年、中の沢特別教授場として開校、昭和二二(一九四七)年、雨煙別小学校中の沢分校に改称。昭和二十九(一九五四)年、緑丘小学校として独立。昭和五十七(一九八二)年閉校。

(23) 雨煙別小学校閉校記念碑

雨煙別

明治三十二(一九九九)年開校。平成一〇(一九九八)年閉校。
現在は雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスとして再生、自然環境教育などの活動を行う拠点として活用されている。



(24) 栗山ダム碑

本沢

昭和六十(一九八五)年、本沢自治会解散。平成六(一九九四)年ダム完成。

(25) 桜山小学校閉校記念碑

桜山

大正七(一九一八)年、雨煙別小学校桜山分教場として開校。大正九(一九二〇)年桜山小学校として独立。平成一〇(一九九八)年閉校。



(26) 鈴木久重顕徳碑 北学田神社境内
北大第五農場看守として三十一年間在職。北学田産業組合初代組合長などを務め、本町産業の発展に貢献。昭和三(一九二八)年建立。

成徳記念碑

北学田神社境内

明治四十二(一九〇九)年、農場創設十五周年記念として建立。

(27) 杵白小学校閉校記念碑

杵白

明治三十三(一九〇〇)年開校、平成九(一九九七)年閉校。



(28) 小島小治郎碑

杵白神社境内

明治二十六(一八九三)年、札幌農学校農業伝習科で学を修め、多くの公職を歴任、杵白の発展に尽くした。大正十(一九二一)年建立。

同境内には開拓記念樹林(カシワ・カラマツ)が指定されていたが、風雪害で例木も多く、伐採整地されその面影はない。

(29) 武田義清銅像

角田小学校構内

角田小学校校長を始めとして、通算二十七年間本町の教育に尽力、多大な成果を挙げた。昭和三(一九二八)年建立、昭和四十三(一九六八)年再建。

角田小学校開校一〇〇周年記念碑

明治二十四(一八九一)年開校。平成三(一九九一)年建立。

(30) 高木農場管理事務所跡

角田則武家敷地

高木兼寛は脚気対策に功績があり、海軍軍医総監まで昇進。慈恵医科大学の創設者でもある。明治二十六(一八九三)年に農場開設、則武家が管理にあたり明治三十五(一九〇二)年事務所も建てられたが、平成二十六(二〇一四)年、老朽のため取り壊された。

(31) 角田村戸長役場跡

角田

明治三十三(一九〇〇)年、由仁外三村戸長役場から独立、同三十四(一九〇一)年役場庁舎落成。昭和三十八(一九六三)年、現在地に新築移転するまで役場は角田にあった。

(32) 忠魂碑

角田神社境内

日露戦争の戦死者慰霊のため明治四十一(一九〇八)年建立された。

開拓記念木(ハルニレ)

角田神社境内

神社造営時より自生のもの。樹齢一三〇年以上と言われる。

(33) 角田渡船場跡

角田

夕張川を渡って往来する交通手段として明治二十四(一八九一)年頃開設。明治四十二(一九〇九)年に夕張橋が架設されるまで運行された。

(34) 角田簡易教授場跡

角田

明治二十三(一八九〇)年、角田小学校の前身となる本町最初の簡易教授場が開設された。

角田郵便局跡

角田

明治二十三(一八九〇)年、郵便取扱いだけの郵便局が設置。明治三十五(一九〇二)年、集配・為替・貯金を扱う郵便局開設。

(35) 泉麟太郎入植地跡

角田

明治二十一(一八八八)年、本町開拓の祖である泉麟太郎率いる一行二十四名が夕張川を渡り此処に上陸。開拓の第一歩を印した。

(36) 高杉善蔵顕彰碑

広濟寺境内

明治二十九(一八九六)年、角田村に移住。菓子販売等を行っていた。碑文欠落のため詳細不詳。大正二(一九一三)年建立。

(37) 水難溺死者供養碑

方田寺境内

明治三十一(一八九八)年の大洪水で犠牲となった人達の霊を供養するために明治三十二(一八九九)年に建てられた。

福井正之顕徳碑

方田寺境内

明治二十六(一八九三)年、角田村に移住し農場経営にあたる。その間多くの公職を歴任する。明治四十二(一九〇九)年建立。

(38) 泉記念館

角田、開拓記念館敷地内

本町開拓の祖泉麟太郎が明治三十一(一八九八)年に建てたものでそのまま保存。栗山町有形文化財に指定されている。

泉麟太郎君記念碑

泉記念館前

入植後わずか十数年で本町の基礎を作りあげた翁の功績を讃え、明治三十三(一九〇〇)年に建立された。

角田村開拓三十周年記念碑

右同

大正六(一九一七)年建立。

(39) 開拓記念木(イチヨウ) 教覚寺境内
明治三十八年、教覚寺説教所の開設時に移植されたもので樹齢九十年以上。

(40) 馬車軌道(馬鉄)跡

角田炭鉱栗山駅横

明治三十四(一九〇一)年頃に石炭運搬を目的に、二岐く継立く杵臼く栗山間の馬鉄軌道を敷設、運行されたが、大正十五(一九二六)年に廃止、撤去された。

(41) 角田炭鉱電車軌道跡

日出

昭和九(一九三三)年、北炭が角田炭鉱から夕張鉄道新二岐駅構内間に石炭専用として敷設、昭和二十四(一九四九)年からは旅客電車も運行、昭和四十二(一九六五)年まで営業した。

(42) 日出小学校閉校記念碑

日出

明治三十三(一九〇〇)年、二岐簡易教育所として開校。昭和二十二(一九四七)年に日出小学校と改称。昭和五十六(一九八一)閉校。

(43) 畑中朝次郎之碑

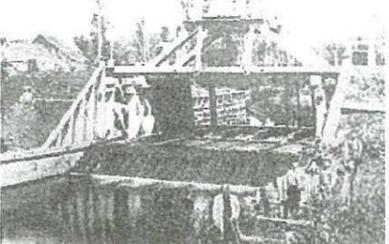
旧日出神社境内

明治二十五(一九〇二)年入植、多くの公職を歴任、日出の開拓、発展に尽力した。昭和二(一九二七)年建立。

(44) 阿野呂川頭首工(太鼓橋)跡

大井分

明治二十六(一九〇三)年、米の試作時の導水場所。その後明治三十三(一九〇七)年に竣工した本道初の分水門。現在は河川改修のため撤去された。



(45) 一本木(ハルニレ)

阿野呂

明治三十一(一九〇八)年の大洪水では多くの人々が犠牲になったが、ただ一人この木にすがりつき助かった人がいた。樹齢三百年以上で昭和五十二(一九七五)年、北海道記念保護樹木に指定された。



(46) 南学田小学校閉校記念碑

南学田

明治二十九(一九〇六)年阿野呂尋常小学校として開校。昭和十一(一九三六)年南学田小学校に改称。昭和三十四(一九五九)年、継立市街地近くに移転し昭和五十六(一九八一)年、継立小学校が新設されたのを機に閉校となった。昭和六十一(一九八六)年建立。

(47) 開拓記念樹林

南学田神社境内

北大第六農場が神社用地設定にあたり原生林と併せてシユロ、カラマツ、ハルニレ、チヨウセンゴヨウを植栽したもの。

南学田開基百年記念碑「一円融合」

南学田神社境内

北大の第六農場として、明治二十七(一九〇四)年に開墾が開始された。

白石源太郎銅像

南学田神社境内

明治三十四(一九〇一)年農場の監督員として造田事業等に多大な功績を残す。

継立郵便局長など公職を多数歴任。昭和二十五(一九五〇)年建立。

(48) 堀井惣太郎銅像

御園旧金毘羅神社跡

帝室林野管理局技手として、御料地の開発・教育・産業の振興、公共施設整備など、地域の発展に尽くす。大正十五(一九二六)年建立。

(49) 御園小学校閉校記念碑

御園

明治三十七(一九〇四)年、御料簡易教育所として開校。昭和五十四(一九七九)年閉校。

(50) 電化揚水機場跡

南学田

南学田の大規模な造田計画のため、大正十三(一九二四)年設置、昭和十三(一九三八)年に北海道初の電化となる。

(51) 角田村水利土功組合堤防跡

南学田

明治三十一(一九〇八)年、三十三(一九〇〇)年の開田事業のため造られた、夕張川からの導水施設。

(52) 多良津渡船場跡

南学田

明治三十年前半に栗山町南角田く由仁町岩内間に開設され、昭和十年代にその役目を終えた。

(53) 不動の滝

南角田

昭和五十(一九七五)年に、北海道自然景観保護地区として指定された。

成聖記念碑

不動の滝構内

多良津御料地として明治三十一(一九〇八)年に開拓が始められた。明治四十三(一九一〇)年建立、平成四(一九九二)年再建。



(54) 円山小学校閉校記念碑

円山

円山小学校開校七十周年記念「円山健児の碑」、昭和五十六(一九八一)年、円山小学校閉校、昭和四十三(一九六八)年、円山中学校閉校。

(55) 東山開拓五十周年記念碑

東山

昭和二十(一九四五)年、東京から拓北農兵隊として入植。平成七(一九九五)年建立。

(56) 円山渡船場跡

円山

明治三十年代に栗山町円山く由仁町東三川間に開設され、昭和三十一(一九五六)年に円山橋が架設されるまで運行された。

(57) 開拓記念樹林(アカマツ)

円山

松浦武四郎が円山と記し道標にしたとされる小山に個人が神社を建立し植栽した。

(58) 水神宮

滝下(川端ダム)構内

明治二十九(一九〇六)年、旧角田頭首工に祠が建てられ、昭和三十八(一九六三)年、川端ダム完成時に栗山幹線導水門横の現在地に移設された。

○栗山町は昭和六十三(一九八八)年に開基百年をむかえ、その記念事業として『開拓記念木・記念樹林』、『ふるさと史跡』を指定し後世にわたり保護保存されることになった。

『広報アノロ』九十五号、九十六号に記載した(8)(14)(21)(28)(32)(39)(47)(57)が記念木、記念樹林であり、(6)(7)(10)(12)(19)(20)(31)(33)(34)(35)(40)(41)(44)(51)(52)(56)がふるさと史跡である。そこには必ず案内板や石柱が設置されており、その場所に立ち今昔に思いをめぐらすのも栗山の歴史を知る事なのである。 完

平成二十六年寄贈品紹介

○大相撲番付(百七十六枚)

栗山町 泉 晴夫様

○栗山の屋号と印刻(本)

栗山町 坂井菊二郎様

○旧篠原木工所

室蘭市 篠原 洋子様

○継立中学校開校五〇周年記念誌

栗山町 荒山富美男様

○由仁町郷土史研究会創立三十周年記念誌

由仁町 大竹 登様

誌

教育委員会から

○額装 継立中学校校歌

○継立中学校閉校記念誌

○由仁商業高等学校創立五十周年記念誌

○和田家資料「内留」嘉永二年

○栗山町陸上競技協会五十周年記念誌

御厚情感謝申し上げます。

これら寄贈品は三月一日く三十一日まで開拓記念館の特別展で展示予定です。

栗山町開拓記念館 研究員 出南 紘
栗山町 教育委員会 発行